

線路再開業務の「み」を「業」に解体 労働千葉

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉碎！

路線を提起できず、デマ宣伝だけを繰り返す「再建」策動を粉碎せよ！

「再建」デッチ上げ策動が、「本部」片肺執行部が「八月全国大会」をのり切るための必須条件であるということによって、今日、デタラメにデタラメを積み重ねる形でやられてきている。その最たるものが、六・二八〜七・五の二度にわたる「津田沼支部」デッチ上げの破産をインベイス、動揺する裏切り・スパイ分子をペテン的に「再建地本」へかこいこむものとして策動されたのが「業務再開」路線である。われわれは、「業務再開」路線が「動労千葉解体」のためにのみ策動されているというをはっきりと見なければならぬ。「本部」反動分子は、この間、全くセクト的な立場から「三里塚敵対」「水本謀略」への動労組織の引きまわし「三十五万人体制」全ての合理化への屈服」を路線化し、動労千葉をはじめとする戦闘的、良心的組合員の正しい主張を暴力をもって圧殺しつつ当局の武装親衛隊として純化してきているのだ。

「動労千葉」の存在に恐怖する「本部」反動分子

この「本部」反動分子の屈服と裏切りを一貫して追及し、労働運動のあるべき姿を体現してきた動労千葉の闘いは、全国の動労内外の労働者・人民の圧倒的共感と支援・連帯をかちとってきており、いたたまれなくなった「本部」反動分子は千葉地本排除をもってセクト的暴力支配を強化しようとしてきた。しかし、動労千葉の断固たる決意と闘いによって、「本部」反動分子の反動と裏切りはより鮮明に突き出され、動労千葉が存在する限り、動労組織のセクト的引きまわしも「五五・一〇」売り渡しをはじめとする当局ベッタリの生き残り策動もなし得ないが故に、「動労千葉解体」は「本部」反動分子にとってやめることのできない「課題」となっているのである。

最大のデマ「ジェット裏切り」

そして、このデマの最大のものとして「動労千葉がジェット闘争を裏切った」なる宣伝がある。そもそも、水上における第三十三回全国大会の三里塚闘争方針を放棄し、機関決定を無視し続けしてきた「本部」反動分子が、本部・本社間交渉におけるタタキ台としての当局メモを、あたかも決定事項であるかのように全国戦術委員長会議に出し、全国の良心的組合員(各地本委員長)から「労働組合の運動論からしても、闘争方針から見

もおかしいのではないか」と追及され、しかも、組織外に対しては秘密会議であるべき全国戦術委員長の資料が、革マル派機関紙「解放」に一字一句違わぬ形で載せられ、そのことを起点に「裏切り」なるデマ宣伝が開始されたのである。「本部・本社交渉」の中味が何故に「千葉の裏切り」なのか。

現に戦術会議で千葉がこのタタキ台としての当局メモに反対をしたとき「本部」は、「これは決定であり指令だ」と強引に押し切ったのではないか。「本部」革マル反動分子こそが動労千葉をはじめとする動労の水上大会決定による三里塚・ジェット闘争を裏切ったということは明白なのである。

運動的にも財政的にも破産した「本部」

動労千葉の闘いによって「本部」反動分子はあらゆる局面で追い詰められている。例えば財政面においても「八月全国大会」で数億円の闘争資金の赤字が表面化することは必至であり、組合基金やスト生活資金の取り崩しの実態も表面化し、大幅な臨徴や組合費の値上げなどしなければ財政的にパンクすることも自明である。この、運動的にも財政的にもあらゆる面で破産したことに對する全国の組合員の追及をのり切るためにも「千葉再建」動労千葉解体は「本部」革マル反動分子にとって「どうしても必要」なこ

となのである。従って、われわれの闘いの方向性も明確である。いかなる「再建」策動も許さず「八月全国大会」へ真実を突きつけてゆくことである。スパイ・裏切り分子を断固追及し「再建」策動を粉碎してゆこう。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！